

最前線 on the Front Line

都の「結婚応援」の在り方とは

婚活イベントの場で考える

機運醸成イベントに始まり、「出会い」イベントやマッチングアプリまで、都が力を入れている結婚支援は「出会いから子育てまでシームレスに」を合言葉に、長期戦略で少子化対策の枠組みにも位置付けている。その「キックオフ」として2日、JR有楽町駅前広場で「結婚おうえんフェスタ」を開催した。20代後半の女性記者もターゲット目線で「参加」し、婚活を体験しながら現状や課題を考えた。

「小池さんだって！」の仕方ないが、一人ひとりで活躍できるような提案をし「え？どこで？」。最りアドバースがもたらしている」とのこと。実は記者もこの日、最も楽しみにしていた企画がこれだ。い

最後は「骨格診断」。女の子の間では最近はやっているが、男性は知らない人も多いたろう。大きく分けて3タイプの骨格があり、それぞれやわらかい素材かハリのある素材か、ミニ丈かロング丈か……など、自分を最も美しくみせてくれるファッションが分かる。スタップの女性は「婚活なので品性と『きちんと感』が出て、自分らしく良さが超えたという。

次はワークショップだ。内容は「結婚設計図を作ろう！」「マッチングアプリのプロフィールの書き方」の2本立て。「行政がマッチングアプリのあれこれをするなんて……」と初めは意外に思ったが、講師の女性も最近では自治体から依頼が来るようになったと言っていた。内容は「特技や自分の内面などを書き出し、そこからアピールできる文章を作る」というもの。15分自分で考えて質問があれば講師に聞くスタイルだった。時間が限られている



「結婚おうえんワークショップ」は参加希望者が多く盛況だった

活イベント、結婚相談所などの婚活サービスを利用していた人は34・1%と過去最高を記録。結婚に至った人の具体的な活動では、婚活サイトが40・2%と最も高く、次いで結婚相談所(34・1%)、知人への紹介依頼(20・0%)、趣味や習い事で相手を探す(19・5%)、婚活パーティー・イベント(18・3%)の順となっており、婚活サイトを初めて取り入れた人など、時流に合わせた構成にしたという。

「出会える場がほしい」

ただ、取り組みは手探りな状況で、「当事者目線」では改善が必要部分も散見される。例えば今回のイベントで実施した写真撮影や骨格診断は通常だと数万円かかるので、整理券の配布に長蛇の列ができ、骨格診断は配布の仕方を急ぎ変更するなど、30代の男性からは「室内で隠れてやってほしい。オー

「出会いの機会創出」に着手する。背景にあるのが最近の「結婚事情」だ。同局が21年度に行った結婚の実態や意識の調査では、「結婚に関心はあるが婚活をしていない」人が7割に上った。また、結婚といえは古くはお見合い、少前なら友人の紹介や合コンなどで出会うことが多かったが、リクルートブライ

行政発のマッチングアプリも

都はこれまで今回のイベントのような「結婚の機運醸成」は行ってきたが、今年度は新たにマッチングアプリの導入や都有施設を利用した出会いイベントなど、「出会いの機会創出」

「ダイバーシティ東京」らしい支援を

（一社）日本婚活支援協会 後藤幸喜代表理事に聞く

2007年から「婚活支援」に取り組み、都の結婚機運醸成イベントのほか、関東を中心とした多くの自治体の婚活事業に携わる（一社）日本婚活支援協会の後藤幸喜代表理事に、行政や都に求められる結婚支援のあり方を聞いた。

都の結婚支援事業をどう見えますか。16年ごろから担当の職員とやり取りしてきたが、これまで「民業圧迫」になるとして機運醸成のイベントに限っており、今年は一80度変わったと思う。ただ、国がAIを活用した結婚支援への補助制度を都道府県を対象に始めたこともあり、全国的にも都と同じ方向に変わってきている。埼玉県も先んじてAIマッチングアプリを導入しており、成果も出ている。アプリは婚活に有効でしょうか。20代には有効だ。結婚の

確率は20代が高いので、アプリで結婚できる人が増えると思う。ただ、たくさん候補者が出てくるため、30代や40代は「まだ大丈夫」と安心してしまったりリスクがある。30歳を過ぎると、新たに知り合った人と結婚する割合は女性では2割に届かないので難しい。また、アプリはいつまで候補者を「選び続けてくれる」のも良くない。誰かとやり取りしていても他の人をオススメされてしまったり、結婚は「この人と決めました」と腹をくくれるかどうかなので、ほとんど紹介されるか決意がゆらぎか

「ダイバーシティ東京」らしい支援をねない。都がアプリを提供する意味は。今の婚活の課題の一つは、結婚を希望している独身者に一度も交際経験がない人が多いこと。そうした人たちの受け皿になるツールが必要になる。アプリでもイベントでもいいが、安心して登録して知り合える場所をどう提供するかが重要。民間のアプリでは既婚者が混じっていたり宗教勧誘された事例もある。「東京都がやっています」というのは親も安心だと思っ

「令和型」でやってもいい。昭和や平成は「恋愛結婚」が始まり、恋愛結婚が主流だったが、今は社会や将来への不安があるので、それに備えることを目的に結婚を選択するようになってきている。また「別居婚」など結婚の形も多様化している。従来の夫婦生活の形にとられず、将来不安に備えた色々な形の結婚に対応できる支援が必要だ。東京の動向は他の自治体も海外も注目している。国際都市なので、年齢やジェンダー、障害などで垣根があってはいけない。世界に発信できる「ダイバーシティ東京」の結婚支援策じゃないといけない。障害者か「(相手)を紹介してくれませんか」という相談を受けるが、民間ではそういう人をたくさん集めることはできず難しい。多分、このイベントで関わる。



人気の骨格診断。様々な素材の布をあてながら、自分がすてきに見えるファッションを見つけよう

「出会いの機会創出」に着手する。背景にあるのが最近の「結婚事情」だ。同局が21年度に行った結婚の実態や意識の調査では、「結婚に関心はあるが婚活をしていない」人が7割に上った。また、結婚といえは古くはお見合い、少前なら友人の紹介や合コンなどで出会うことが多かったが、リクルートブライ

「出会える場がほしい」

ただ、取り組みは手探りな状況で、「当事者目線」では改善が必要部分も散見される。例えば今回のイベントで実施した写真撮影や骨格診断は通常だと数万円かかるので、整理券の配布に長蛇の列ができ、骨格診断は配布の仕方を急ぎ変更するなど、30代の男性からは「室内で隠れてやってほしい。オー

「出会いの機会創出」に着手する。背景にあるのが最近の「結婚事情」だ。同局が21年度に行った結婚の実態や意識の調査では、「結婚に関心はあるが婚活をしていない」人が7割に上った。また、結婚といえは古くはお見合い、少前なら友人の紹介や合コンなどで出会うことが多かったが、リクルートブライ

「ダイバーシティ東京」らしい支援をねない。都がアプリを提供する意味は。今の婚活の課題の一つは、結婚を希望している独身者に一度も交際経験がない人が多いこと。そうした人たちの受け皿になるツールが必要になる。アプリでもイベントでもいいが、安心して登録して知り合える場所をどう提供するかが重要。民間のアプリでは既婚者が混じっていたり宗教勧誘された事例もある。「東京都がやっています」というのは親も安心だと思っ

「令和型」でやってもいい。昭和や平成は「恋愛結婚」が始まり、恋愛結婚が主流だったが、今は社会や将来への不安があるので、それに備えることを目的に結婚を選択するようになってきている。また「別居婚」など結婚の形も多様化している。従来の夫婦生活の形にとられず、将来不安に備えた色々な形の結婚に対応できる支援が必要だ。東京の動向は他の自治体も海外も注目している。国際都市なので、年齢やジェンダー、障害などで垣根があってはいけない。世界に発信できる「ダイバーシティ東京」の結婚支援策じゃないといけない。障害者か「(相手)を紹介してくれませんか」という相談を受けるが、民間ではそういう人をたくさん集めることはできず難しい。多分、このイベントで関わる。